



さくら橋下の道路は「南橋通り(さくら橋通り)」



せんば遊歩道



杉谷公園通り



コミセン坂



プラザ下遊歩道(道路の左側)



南山東公園坂



夕陽坂(北橋通り)



マテバシイの木坂

『船場』とは?それは『船着き場』河川湖沼、海など“水縁”にある呼称です。広義で、『船着き場』に隣接する周辺後背地の港湾機能(船だまり、荷卸し場、蔵屋敷など)を含む一帯地域の〈街〉を指すことばです。読み方は“せんば”と“ふなば”、表記は“船”と“舟”のともに2通りがあり、各都道府県の行政地名(住所表示)では全国60箇所以上が確認できます。《箕面船場》は大阪市内の《大阪船場》から、標高120m前後の千里丘陵地へ分家独立移転し、国内で唯一水縁にない《船場》、また日本で最も高位置に存在する《船場》になりました。

“地名の移動”は単に新しい土地に“旧地地名”を上書きするだけではありません。良くも悪くもそこには、ある“想い”が込められています。〈船場〉の名は“船着き場”から“街”を表す言葉になり、その“街”で大阪の繊維卸商業者は商いをしていました。『箕面船場』の地名にも、その“街”の“想い”が宿っています。今、『箕面船場』のみなさんが、大阪メトロ御堂筋線[本町]駅ホームに降り立って、副駅名の[船場西]を目にしたとき、あらためてそのことに気づかれることでしょう。

箕面船場まちづくり協議会・地理歴史班 竹綱・宇宿(うすく)

ラジオ体操にご参加しませんか？

船場広場では平日の午前7時から地域の皆さんが参加して、ラジオ体操をしています。毎朝継続して行うことで、筋力アップや効率のいい有酸素運動ができ、シェイプアップにもつながります。(スタンプを集めて缶バッジと交換)

主催:箕面船場まちづくり協議会 開催日:平日 時間:午前7時～(雨天中止)



発行 箕面船場まちづくり協議会
〒562-0035 箕面市船場東1-8-51-302
<http://www.minohsemba.com>



・「まちづくり」についてのご意見をお寄せください
・「まちづくり」の仲間を募集しています
お気軽にご連絡ください



「まち知るべ005」は令和6年度赤い羽根共同募金箕面市地域支え合いプロジェクトの助成金で制作しています



箕面船場まち知るべ

2025年(令和7年)3月23日
箕面船場まちづくり協議会

005

新駅開業1周年記念号

『箕面船場』わがまち地名考(その1)

『箕面船場』は日本で唯一丘陵地にある「船場」

千里丘陵最高峰133m地点に、なぜ「船場」(船着き場)の地名がついたのでしょうか?それは語源的にありえない日本でたったひとつの丘の上にある「異端の船場」なのです!わがまち「箕面船場」の新駅開業1周年を記念して、まちの生い立ちを見てみましょう。



写真下部の横に広がる緑地が千里丘陵 その北側が「箕面船場」(画像提供:大阪船場繊維卸商団地協同組合)

『箕面船場』の「まちびらき」は1970年(昭和45年)の大阪万博の年

高度成長期の昭和30年代半ば(1960年代初頭)、大阪市内中心部は慢性的な交通渋滞に悩まされていました。特に東西方向に走る〈船場〉地区繊維問屋街を行き交うトラックにとって、狭い道路は大きなボトルネックになっていました。また、繊維問屋街は物量の増加で倉庫不足に陥り、その解決にむけて昭和39年(1964年)、東京オリンピックの年に、大阪市、大阪府と新たに設立された[大阪船場繊維卸商団地協同組合]、そして箕面市が足並みを揃え、1970年開催の大阪万博までの完成を目指して、ふたつの大きな万博関連事業にとりかかりました。

①大阪市中心部の東西方向に中央大通りを建設

地下2階地上4階建ての連続した10棟のビル(船場センタービル)を中心部に建設。屋上に阪神高速道路を敷設。

②繊維卸商の集団移転

千里ニュータウンの北、千里丘陵の稜線を越えた〈南山〉北側に大規模な繊維卸商団地の造成と200社を超す繊維卸商業者の移転。

昭和42年(1967年)、箕面市は芝、稲、西宿、東坊島、西坊島で船場繊維団地土地区画整理事業を施工し、卸商団地の造成に取りかかりました。昭和45年(1970年)、《大阪船場繊維卸商団地》は“まちびらき”を宣言。翌年6月に市議会は行政区画と名称の変更を決議し、新御堂筋を境とした東側業務地を〈船場東1丁目～3丁目〉、西側業務地と住宅地を〈船場西1丁目～3丁目〉としました。そして、昭和47年(1972年)4月20日、正式に《船場》の町名が施行され、大阪の繊維卸商の本拠地《船場》の名と歴史を受け継いで、箕面の地に《船場》の地名を冠し、新たな歴史を紡ぐことになりました。今に至る『箕面船場』の歴史はここから始まりました。



造成が進む「箕面船場」昭和46年ごろ
(画像提供 大阪船場繊維卸商団地協同組合)

『大阪船場』と『箕面船場』

『大阪船場』と『箕面船場』の縁戚関係は「箕面船場阪大前駅」から大阪市内方面行きの電車に乗れば気づきます。大阪メトロ御堂筋線「本町駅」のホームの駅名表示板と路線表示板のどちらにも、駅名「本町」と副駅名〈船場西〉が併記されています。お隣の堺筋線の「堺筋本町駅」には「堺筋本町」とく船場東〉がやはり併記されています。こちらが本家『大阪船場』東西の2駅です。『大阪船場』のく船場西〉とく船場東〉は、中央線に乗りして一駅ありますが、『箕面船場』のく船場西〉とく船場東〉は新御堂筋を挟んですぐ隣の位置にあり、本家『大阪船場』と比べると、分家『箕面船場』はコンパクトと言えます。もし「箕面船場阪大前駅」に副駅名く船場西〉とく船場東〉がついていればと想像すると強い繋がりを感じます。

『箕面船場』の範囲

江戸の時代、現在の豊中市千里西町から緑丘3丁目にかけて、「番小屋山・島熊山の三蓋峰」と呼ばれ、標高が最も高い地域として知られていました。島熊山の名は今でも良く知られていますが、最高峰は造成で消滅した番小屋山(131.7[㍎])でした。ここから東方向へ向かって続く120[㍎]を超える尾根筋が、現在の箕面市と豊中市の市域境界線になっているく千里緑地〉帯です。このく千里緑地〉帯が北に向きを変えたところから、標高130[㍎]前後の尾根が続き、北端の峰に三等三角点(「芝、旧村名)が設置されています。ここが133.8[㍎]の千里丘陵最高峰「船場山(南山)」の最高地点であり、あまり知られていませんが箕面船場地区の最高地点になります。箕面市の最高峰は「明ヶ田尾山」(619.9[㍎])なので、わざわざ標高130[㍎]程度のこの場所を宣伝することはしていません。一方の豊中市側は、ここを堂々と市内最高地点と紹介しています。この丘陵最高峰の稜線が千里丘陵の北縁で、南側斜面が千里ニュータウン、北側が『箕面船場』の街になりました(1970年まちびらき)。そこを南北に貫通しているのが新御堂筋です。

このく千里丘陵〉の名は、そもそも大阪側から北へ向かって見た呼称で、稜線の北側、箕面市側の西国街道沿い萱野からは別の呼び名がありました。山裾の千里川より南側なのでく南山〉(みなみやま、みなみのやま)と呼ばれていて、船場の街ができると、その呼び名はく船場山〉に取って代わられてしまい、今は、「南山北公園」、「南山東公園」、「南山緑地」と3つ公園にその名を残すのみとなりました。しかし、『箕面船場』の歴史を語る上では、けっして忘れてはならないく船場山〉の旧名・呼称がく南山〉です。また、新船場南橋付近から続く西斜面側の稲地区、稲六丁目南側付近から船場西3丁目の「冷谷池」辺りにかけて、かつてく千里山〉というく小字〉(こあざ)が存在していました。100[㍎]超の高さにも関わらず、なぜここが?という理由は不明です。く千里山〉は、吹田市の阪急千里線沿線付近だけではなく、このあたりまで“千里”と呼ばれていた証拠とも推測できます。

『箕面船場』の「坂道や通り」の名称

『箕面船場』の特徴は、もちろん日本国内唯一高台にあるく船場〉、即ちそれは「坂のまち」でもあることを意味します。元々最高峰133.8メートルを誇る千里丘陵の北斜面が削られ、造成された土地に、北と西方向に何本もの坂道が造られました。1970年の“まちびらき”以来、正式名称がついた坂は一本もありませんが、ローカルな「通称」がついている坂があります。例えば、新船場北橋から西に続く銀杏並木を下る坂は、夕陽が美しい「夕陽坂」。市立病院東側のマテバシイの枝が伸びすぎる歩道は「マテバシイの木坂」。「船場山」の旧称「南山」が使われている「南山東公園」横の坂は「南山東公園坂」等々。しかし、まだ地域の限定使用なので、多くの方々には知れ渡ってはいません。そこで、“まち歩き”や“道案内”に、また船場のまちに愛着を持ってもらうために、地域の人々が使っている「通称」に加えて、箕面船場まちづくり協議会が独断で“坂道名”と“通り名”をつけました(相応しいと思われる名称)。これらをまとめたものが右ページの地図【「通り&坂名称」マップ「船場まち協」2025年版】です。

皆様からも相応しいと思われる名称があればご提案ください。



「船場トンネル」を出た北急箕面萱野行き



「キャンパスストリート」のホコ天(2024年7月)



新御堂筋で切り開かれた「千里緑地帯」



「豊中市最高地点」は箕面市の「船場山(南山)」頂上でもある